

## 第16回「設楽ダム連続公開講座」運営チーム会議 会議録

開催日：平成25年9月23日（月）  
場 所：愛知県東三河総合庁舎（大会議室）

（牧原土地水資源課長）

時間になりましたので、ただいまから第16回目の設楽ダム連続公開講座運営チーム会議を開催させていただきます。

それでは進行の方、リーダーの戸田先生をお願いいたします。

（戸田リーダー）

皆さんこんにちは。23日という祭日ですけれども各委員の皆さん、また傍聴の皆さん、事務局の皆さんもお集まりをいただきありがとうございます。

今日は1時から概ね3時を目処に第16回の運営チーム会議を進めてまいりたいと思います。

まず最初に議題を見ていただきますと、5点ということになりますが第15回の運営チーム会議の確認と、その後発生した議題についてまず最初に議論いたします。

それから、第6回のとよがわ流域県民セミナーのまとめ、先回のセミナーのまとめ、それから今後のセミナーということですが、第7回、第8回のセミナーのこれからの進め方についてということです。

その他ですが、それ以降のことについての時間の許される範囲で、以降ですね9回についての議論を今日しておきたいというふうに思います。

それでは、資料をご覧になっていただきたいと思いますが、第15回の運営チーム会議についてという資料1をご覧になってください。

確認の意味もありますのでザッと見ておきたいと思いますが、第6回の公開講座、これは利水についてということですが、先回の講座になります。これは2部。1部、2部という形で開催をされました。愛知大学豊橋ですね、場所として開催されました。

休息時間はサイドイベントということで、新しいところで移動販売車でサイドイベントもありました。これは井上委員、小島顧問、蔵治委員それから原田委員のご担当ということであります。

それから、これから以降ということで、第7回は「流水の正常な機能の維持のための手段とは」ということで、これが次回のセミナーになりますが、これについては今日の議題の中で取り扱う予定となっております。

前回時点で日時、場所ですね、それから講師の大枠が決まったということですので、今日はその詳細な進め方についても議論してまいりたいというふうに思います。

それから第8回の治水になりますが、第8回講座についてということになりますが、これについては富永委員と原田委員のご担当ということになります。

第7回はですね、富永委員と蔵治委員のご担当ですね。

日程が2つ挙がっておりましたが、12月の7日というふうになったというふうになっております。これも詳細は後ほど議論してもらいたいと思います。

運営チーム会議の15回については以上となりますが、何か追加することはございますか。よろしいですか。

では、それ以降の議題としてですね、ホームページの記録を順次アップしていくこととなりますが、講師が多忙であったりということなどで若干遅れ気味のところもあるということですので、それを迅速に行うために一定の基準を設けてはどうかというご提案がありますので、そのことについて議論したいと思いますが、これは蔵治委員からご

提案がございましたのでお願いします。

(蔵治委員)

はい、過去のセミナー及び運営チーム会議の議事録、講演録あるいは質問シート、振り返りシート及びその回答ですね、そういったものがあると思うんですけども、これは原則全てホームページにアップしていくということなんですけども、一部、大変遅れているものとかがございます、2月に第4回のセミナーがありました、そのセミナーの記録がまだ公開されていない状態になっていたとかですね、そういったことがあったので、どうしてそうなったのかということを確認しますと、私たちここに居る6人の委員が全員確認しないと公開出来ないというような形で運用されてきたということなので、これからはその確認に充てる期限を切って一定程度の、まあ1か月程度かもしれませんけれど、その位の期限を過ぎたらそれでオーケーだということに公開していくというふうにしたかどうかということをご提案したいと思います。

(戸田リーダー)

ありがとうございました。4回は私も、小島先生の担当でこれはなかなか申し訳ないということがございますがどうでしょうか。4回についてはですね、今のちょっと復唱になりますが、ホームページにアップされているものは講演記録というのが一つですね。この講演の記録をアップする。

それから、質疑部分ですね、講演の中で質疑部分をこれもアップするという事です。これが講演そのものが行われた内容を、これは2つに分けてホームページにアップしています。

それから質問シート、振り返りシートについて、これもかなり細かくですね、質問シートについては講師分。例えば、第4回ですと2人の講師に対して別々になりますし、共通の質問というものもあります。それから振り返りシートがこれも各講師に向けてのものと、それから事務局に向けてのものというものがあります。ですから、かなり数が多いというのが一つあるんですが。

で、講演のもの、それから講師に対しての質問、振り返りについては、これは講師の承諾を得るといってそういうプロセスを取っています。承諾ないし修正ということですね。

それから振り返りシートの委員会分については、これは全員出すということになります。

それから、もちろん講演録についての発言者、委員等がありますから、それについても全員見ると、こういうことになっております。

そうするとどうしても時間が掛かってしまうので、今の蔵治委員のご提案で、確かに6か月位経ってしまうということですから、これはもう少し迅速に進めなければならぬということですがいかがでしょうか。1か月位で切ってやっていくということも今のご提案としてはそういうことですね。時限を設けるということですがご意見いかがでしょうか。

(小島政策顧問)

はい、あの多分色々な新しい仕事が多分皆さん入って来てしまうので、だんだん入って来たものの処理が先になってしまうと、こういうこともありますから期限を切ってやっていただくと、やればいいんじゃないかなと思います。

そうすると自分のところに入ってくる仕事の優先順位がですね、強制的に決まるということになりますから、それでいいかなと。

結局、やる仕事っていうのは1日とか2日分の時間を、どの位か分かりませんがいつ

割り振るかっていうそれぞれのそういう仕事になりますので、なかなか取れる時間をどういうふうに割り振っていくかっていう、それぞれの先生の優先順位の時間の割り付けの問題なので、その仕事はですね1週間も掛かっている訳ではなくて、やる仕事をどこに貼り付けていくかっていうことですから、ルールを決めていけば優先順位が高くなると、強制的に高くなるのでそれで結構ではないかというふうに思います。

締め切りがあっても結構、原稿なんかも遅れたりしているものですので、でもやっぱり締め切りがあればそこまでだということになりますから、いいことではないかと思えます。

(戸田リーダー)

はい、ありがとうございます。概ねそういう方向でですね、時間を区切ってということを進めるようにと思いますが時間的にはどうですか、1か月位でよろしいですか。

じゃあ1か月を目処にということで。まあ、もう2、3日待ってくださいとかそういうことは適時だろうと思いますが。

で、講演記録、質疑記録については、これは事務局の方で相当詳細に起こされていると思いますので、これについては1か月を原則として、それを見ていただいたという前提になろうかと思いますが、アップをしていくということをお願いしたいと思います。

で、質問シートと振り返りシートについては、これは担当委員がおられますから、これは1か月を目処とこれもそのような形で。

完全に答えていただくのを待っておりますと、これはなかなか過ぎますので1か月でアップする。

もちろん後ほど修正するということは、差し替えは出来ますので適宜そういう形で公開をしていくというふうにしたいと思います。

振り返りシートの委員会分、これについてはやはり委員会で出しますから、この点についてはやはり全員、委員も確認だけは不可欠だというふうに思いますが、このような整理でよろしいでしょうか。

では残っております4回から出来るだけ早急にホームページにアップをしていくというふうにしたいと思います。

そのホームページ公開時期と、その手順については今確認させていただいたようなことでよろしく願いをいたします。

それでは次の議題に入りたいと思いますが、第6回のとよがわ流域県民セミナーのまとめについてということですが、これはご担当4人いらっしゃいますからどの委員からお願い出来ますでしょうか。あるいは先に事務局から聞きましょうか。

では、いつものようにとよがわ流域県民セミナー参加者の分析結果というのがございますので、これについて事務局から報告をお願いします。

(事務局)

ではリーダー、事務局の加藤と申します。

それでは資料のですね、グラフになっている資料の2の1というふうに振られてございます資料をご覧ください。

1枚目からですね、第1回からの参加者の方の分析結果をずっと載せております。

3枚目のところの下のところがですね前回第6回、8月3日に開催いたしました第6回のセミナーのまとめ、参加者のまとめという形になります。

これ見ますと大体、東三河地区開催では豊橋の方では愛知大学の豊橋キャンパスの方で開催をさせていただきました、東三河地区から7割強、名古屋から2割強という傾向でですね、これは東三河でやる時には、ほぼこのような傾向が出ている。これは全体を

通しての傾向ではないかというふうに思っております。

ちなみに第2回と第4回はですね、名古屋でですね、第2回は県図書館の大会議室で、それから第4回は愛知大学の名古屋キャンパスの方で開催をさせていただきました。

第2回の際はですね、東三河地域から大体4割強位、名古屋の方も4割弱という傾向でですね、開催場所が名古屋でやりますと東三河の参加の方が減る。で、名古屋の方が多少増えるという形かなと思います。

それで前回第5回ですね、3枚目のすぐ上になりますけれども第5回は新城市で開催させていただきました。

その時は開催地の新城市の方、それからほぼ地元かなと思われます豊川市の方も参加が増えているということになります。

また、一つ前に戻ったときの第3回がございます。2枚目になります。

第3回の際には、これは蒲郡市の方で開催をいたしましたけれども、その時には蒲郡の方が他のところと比べると増えているという形でございます。

今回、第1回でやったところと同じように豊橋の方で開催をさせていただきましたけれども、やはり豊橋の方が参加が増えているということでございます。

地元で開催すればですね、当然かもしれませんけれども参加してみよう。地元でやっているならば参加してみようというような気がいたします。このような傾向を示しているということでございます。

それから、第4回までは事前申込、当日ですね、事前申込無くても参加していただける、何も支障なく参加をしていただいておりますけれども、前回第5回からですね、最初からもう事前申込無くても入れますというようなお話をさせていただきました。

第5回の際にはですね、事前申込の方と当日みえた方がほぼ同数位みえまして、ちょっと非常に私ども泡食ったと。正直なところですね、最後の方の10名位の方が当日の資料が無かったということもございました。非常に申し訳なかったというふうに思っております。

前回ですね、8月3日にやった第6回の際はそこまではちょっといかなかったということで、これは資料にはございせんけれども、事前申込者の半分位の方がみえたと、当日参加という形になったというふうになってございます。

それから市町村別の参加、それからエリア別の参加の方はですね、これは当日受付をした方の総数ということでございます。

前はチーム会議でもお話がありましてですね、総数という表現は受付をされた方ということになります。従いまして委員の方とか、講師の方を除いた参加者全員の数というふうに理解をしていただければ結構かと思います。

あともう1枚、最後のページになります。資料の2の2になります。こちらの方は参加された方のうち振り返りシートを提出された方の人数ということでございます。

これも前回ちょっと委員の方から誤解を招くというご指摘がございましたので、表現を振り返りシート提出数というふうな表現に直させていただきました。今回は38人の方の提出があったということでございます。

それから参加者の方が異なりますので、単純な比較はちょっと難しいかなと思っておりますけれども、この中の一番最後の理解度というところがございせんけれども、理解度で「大変深まった」「かなり深まった」という割合は7割強でございます。

これは前回、前々回位がですね、5割程度であったこともございせんので、講座における理解度というのは前回は、この2、3回のうちでは一番多かったというような数字になってございます。

私の方からは以上でございます。

(戸田リーダー)

はい。この参加回数ですが、38人がサンプルになっていますが初めてというのは、これは無回答になる訳ですか。そう理解すればいいですか。

(事務局)

これは記録が無いので、初めてとか1回、2回というのは分からないと。

回数のところに入りが無いということですので、この方が1回参加しているのか2回参加しているのかちょっと分からないということになります。

(井上委員)

この参加回数については振り返りシートの書き方が少し、もう少し丁寧に書いた方がいいかなと思います。

次の議題になるんですけども、次の回の時の振り返りシートが資料の中にあるんですが、そこに過去に設楽ダム連続公開講座へ出席された回に○をお付けくださいということになっています。

それでこれで1回か2回とか、それからここには資料には無いんですが何回に参加されたかというのが出てくるんですが、ここに初めてというところがないので、過去の質問項目についても無回答の方がおられて、それは回答したくなければなくていい訳なんですけれども、そこと初めて参加の区別がこれだと付かないものなので訂正した方がいいかな、修正した方がいいかなと思っております。

(戸田リーダー)

ありがとうございました。まず事務局から提出していただいた資料についてのご質問等ございましたら。ご意見、ご質問。もしフロアからあれば、はい。

(傍聴者)

設楽町の伊奈です。たくさんの方に参加していただくということがこの会の主たる目的だと思うんですが、なかなか参加者が増えない。

豊橋の愛大という大きな場所を借りても100人を切っておる、何故なのかという。

参加した人は理解が深まったとかいうのがたくさん入っている訳ですが、それよりもたくさんの方に、一般の方に参加していただくという努力をしないとですね、いつまで経っても県民全体に分かってもらうという趣旨から外れてっちゃうと思うんですよね。

そのところどうするかということを一度、考えていただきたいなと思います。

(戸田リーダー)

ありがとうございました。ご意見いただきました、ありがとうございました。じゃあその点を踏まえて担当、ご担当委員からのご意見をいただきたいと思いますが。

とりまとめ状況ということですがいかがでしょうか。第6回の委員。じゃあ第1部から。第1部は井上先生と小島先生。じゃあ井上先生から。

(井上委員)

はい、参加者数を増加させるということについて、これは第1回の時からずっと議論してきているところでもあるんですが、あるいは振り返りシートでもご意見いただいているんですが、なかなかいい知恵が今のところ出ていなくて、それにつきましても振り返りシート、前回の時にも回答のところでも「もし何か提案があれば」というようなことも書いたんですけども、なかなか我々で思い付くところというのは少ないです。

で、今回につきましてはこの今日の会議の開催の案内が、東日新聞等の新聞記事になっていたかと思えます。

いつ記者会見されるかによって、新聞記者が記事の多い少ないによって変わるかもしれないんですけども、なるべくそういう周知する手段あるいは少し記事になれば次の会議の時でも、14日ですけれども何かしら参加を呼び掛ける記事が出ると少しは変わるかなとは思います。

それ以外にどうやって、一度あの小島委員の方が新城市でやられた時にはポスティングによって配布されたんですけども、どういう方法で参加者を増やしていくかということについてはどうでしょう、考えていくのは・・・はい。

(小島政策顧問)

シンポジウムだとか会合だとか、他の会合も色々あるんですけども、会議を開催する側からのアプローチというのはある程度出来るんですね。

で、まだそれも不十分かもしれないですけども、新城の場合は1回ビラを配ってみようと、誘導してみようと。それから役場の電話が各戸にいくということで、それも使わせていただいた。そうするとどういうことになるのかなあということなんですが、今事務局の方からお聞きしたところ、事前の申込と当日の申込が半々位。多分「今日会議行ってみようか」というのはそういうことなのかもしれないなあという気もするんですね。

市内のあれと違って、それぞれの地域、地域とか集落であれば「今日はそういうことがあるよ」で、行ってみよう。そういう参加形態かもしれない。

つまり、呼び掛ける側と参加する側が、どういう動機によって参加してこられるのかなあということなんです。

例えば、僕らは子供の会議なんかもやるんですけども、ビラとかインターネットで1,000枚位配っても4、50人なんです、来られる方は。そういうもんだと思ってるんですよ、都会でやる場合には。

色んな学校に行き、色んな子供にも直接渡し、それでも1,000枚位アプローチすると4、50人来るという感覚が東京の感覚。

で、それぞれの地域にもあるので、そのまんま、どの位情報を出すとフィードバックが何人来るのかっていうのは、その地域とかやり方によっても違うんですけども、一度来られる方々の動機だとかですね、あるいは障害になっている事柄というものを考えなきゃいけないかな。

ただ、会議の開催っていうのが土日に行っているんで、勤務とはいわゆる勤め先ですね、サラリーマンの勤め先とは競合しないんですけども、今度は土曜日にやる日曜日にやるっていうと行楽と競合するということになりますから、大抵僕ら会議を設定する時にはそういう競合することは何だろうなあということを考えるんですけども、雨が降ると出が悪いとかですね、イベントの種類によるんですけども、そういうことを考えながら何人来られるのかなあ。事前の登録の中での参加は全員なのか9掛けなのかとかですね、そういうことを考えながら資料の、事務局はちょっと大変ですけども資料を何部刷るとか、そういうことを考えたりするんですけども。

そこら辺のこちら側の情報が拡散をする。新聞に載せるとかそういう努力と、それから行ってみようという。あるいは今日は行かないよというその障害というのを分析をして、やってみようということから。

大分、色んなことを試みている訳ですよ。場所を変えてみたり、時間を出席出来るような日にしたりとか、あるいは名古屋でやる場合も駅の近くがいいとか、そういう工夫はしているとは思いますが、もう一つ足りないのはやっぱり出席をする人たち

が何が障害で来られないのか、あるいは、何故その気にならないのかっていう、そちらの方の分析をしましょうかね。

あるいは、来ようかと思う人のところにアクセスをしていないのかもしれない。例えば子供に情報を伝達をしようという場合には、子供が見てる媒体に出したりするんですね。小学生新聞とか朝のテレビ番組とかですね。だから媒体が違うのかもしれないですね。

今、コンスタントに100人前後なんですけれども、これを広めていく場合にはターゲットと、それからターゲットに合っていない媒体なのかもしれないし、ちょっとそれは分からないんですけども、ちゃんと分析をする必要があるかなど。

あるいは、どっかで一つ大きくイベント的に組んでみるという工夫があってもいいかもしれないですね。

これ、極めて真面目にやっているの、僕らすぐやるとね、大体、人が寄るような人と呼んでくるっていうのが一番簡単なんです。

例えば、子供を寄せようとする、子供に人気がある人と呼んで来て、で、それを中心にしてプログラムを組むと集まってくる。

よく言う人寄せパンダ的になっていうのは、これはすごく安易な作り方なんですけれども、集客をする方法としては十分使われる方法なんです。一回経験すると次も来るのかもしれないし、その時だけかも知れない。

これはちょっとやってみないと分からないですけどね。色んな方法をやっているんですけど、極めて今までまじめにやってきたんで、もうちょっとダイナミックでもいいかもしれないということでしょうかね。

(戸田リーダー)

はい、ありがとうございます。はい。今じゃあちょっと、いかに増やすかということとを少し議論して、それから第6回のまとめのことに入っていきたいと思います。はい。

(原田委員)

そうですね、集客に関しての話になると深く議論しなくちゃならないんですけど、サラッとすると、何が理由で来れないのかとか、負の理由は何かっていうのを追及する前に、これ最初から負だと思うんですね。

私たちから集客をするに当たっては、全く魅力の無い会だと思うんですね。その魅力の無いと思う人たちを呼び寄せるのが本当は周知でした。

これに興味のある方はもうもちろんいらっしゃる。で、それ以外の方に如何にメッセージしていくかということなんだと思うんですが、確かに難しいです。

私もこれは名古屋で配っていても、名古屋の人たちは名古屋が会場の時は来てくれましたけれども、やっぱり会場が遠いので来れないのがほとんどですよ。

それから旨みが無いですよ、魅力という意味では。なので例えばショッピングするところとかで公開会議をしてしまったりとか、その中で散りばめられた設楽ダムに関する何か皆さんの中に残って、次に来てもらえるようなトークは出来ると思うので、いつもの内容が深いセミナーを行っているの、だから私たちが待っているのではなくて、私たちがたくさんの居る人のところに行く。ショッピングモールとか、大きなところが色々あって催事をやって、何かそんなことが出来たらいいのかなと思いますけれどもいかがでしょうか。

(戸田リーダー)

はい、どうぞ。

(小島政策顧問)

原田さんがおっしゃったものは一つのやり方で、よくやっていることですよ。

つまり人を集めるのが大変な場合は、人が集まるところでやるっていう。例えば、NHKの周りの代々木公園で僕らやったりするんです。あるいはデパートでやったり。

元々人が集まるからですよ。だから、集まるところでやるっていうのは集客をちょっとこの会の話じゃないですよ。この会の話じゃなくて、およそイベントを作っていく場合の一つの方法なんですよ。

人が居るところでやる。だから、大きな駅のコンコースでコンサートやるっていうのも、あれは人が居るからなんですよ。もの凄く有名な人だとコンサート会場に来るんだけど、そうじゃない上手な人だけなかなか来ない場合には、人が居るところでやる。

で、そういうようなことをやってみるかということですね。これは、集客との関係でいくと一つの方法でもあります。

(戸田リーダー)

他、どうぞ。

(蔵治委員)

今回、一番参加者が少なかったんですけども、チラシのキャッチコピーに間違いがありまして、チラシのキャッチコピーに「将来のための水は足りてるの？あまっているの？」って書いてあったんですけど、「足りないの？余っているの？」って本当は書かなきゃいけなかったんだと思うんですが、それはまあ単なる間違いだと私は思っているんですけども、ちょっとその辺も甘かったのかなという気もしています。

本来は足りないのか余っているのかという対立命題があるような設定であれば、それなりにマスコミなり関心のある人で足を向けた人も居たかもしれないんですけど、ちょっとそこはミスがあったかなというふうに思っております。

今日、振り返りシートとか質問シートは出ておりませんが、いただいているものを見ると、確信犯的にこういうふうにしたんじゃないかという意見を書いている方もいらっしゃるんですけども、私はそうではなくてうっかりそれに誰も気が付かなかったと。私ども委員だけでなく傍聴している方々からも何の指摘も無かったということなんですけども、ちょっとそれは残念なことだったなと思っています。

もう一つ、この8月3日の時点で既に豊川水系の水資源については、平成6年を上回る位ひどい渇水になる可能性があるという状況だったと思うんですけども、そういう状況っていうのは、むしろこういう問題に関心を生むきっかけになる状況だったと思うんですけども、にも関わらず関心を持たれていないということが今回分かったと思うんですけども、やはり多くの県民の方々にとって非常に優先順位低いことであると、どうでもいいことであるっていうふうに認識されてるんだろうなということを改めて感じた訳です。

で、それは設楽ダムについてもそうで、今、その国の事業である設楽ダムが、愛知県知事の判断によって保留されているというのはこれは大変なことで、こんな大変なことが起きていると思うんですけども、それを大変なことだというふうに多くの県民は別に認識されてらっしゃらないらしいということなんですよ。

ですので、もし我々の重要な任務が参加人数を一人でも増やすということに依然としてあるのであれば、非常に困難な要求を、困難なミッションを背負ってるなということを改めて感じた訳です。

で、皆さんご存知のように当初いらっしゃる委員の方で、辞任された方がいらっし

やる訳ですけれども、辞任の時の説明の大きな理由というのは、多くの県民に参加してもらってということがミッションであるはずなのに、そのような予算も用意されていないし、そのような専門家が並んでいる訳でもないという非常に厳しいご指摘があったと思いますが、私どもは私どもの能力の限りクオリティの高い内容あるいは県民に広く共有して欲しい内容を講座として用意しようと努力しているんですけども、なかなか内容の充実ということと、参加人数の増加ということはトレードオフの関係にあるようです。

この問題が極めて県民の関心の薄い問題で、優先順位が低いことである以上ですね、そういうものを変えていくっていうことは極めて難しいんだろうと思いますし、だから人数を増やすってことの優先順位を上げるんだったら、内容についてある程度犠牲を払わざるを得ない。客寄せの手段を講じるとなれば、その分だけ講座のクオリティの内容が下がるとかですね、そういう関係にあるんじゃないかなというふうに思います。

ですので、今後まだいくつか残ってる訳ですけれども、今後その点を果たしてどっちに向かうのかということですね、ここで改めて一回立ち止まって振り返って考えるというかですね、場合によっては愛知県庁としての意見も良く聞いて、残りの講座をやっていくべきかなというふうに感じたところです。

(戸田リーダー)

ありがとうございます、まあ何点か議論あったと思いますが質を、数をどう捉えるかっていうことですね。これはもう最初から多分ずーっと続いている議論だと思いますけれども。それには総量という議論が、この一回一回のシンポジウムの総量という議論が一つはある。

それから時間の中で考えると、ネットということも含めてキチッとしたものを残しておくっていう、そういう議論もあったと思うんですね。

で、それについては一定の内容を確保するものを残しておく。それはいつでもアプローチ出来るような形で広がっていくという、そういう意味合いもあったというふうに思います。

えーっと、それから内容としてはちょっと私、一つ気になるのはこの数は行って100か120、多い時120で、まあ先回は96、100弱ですが、この人達がどういう構造になっているのか、中が変わりながら色んな人が広がりを持ちながら来ているのか、一定の方がずっと来ているのか。

まあこの、ですからさっき私ちょっと申し上げたこの辺りがですね、この振り返りシートがもう少し厳密に捉えられて、内容を見ていくことっていうのが必要じゃないかという感じがしました。

ここからまた話が広がっているとかですね、そういうふうに変わっていれば、それが一つの媒体になっているんじゃないかなということもあります。

まあ、いずれにしてもそういう質の問題をどうするのかということと、この数を集めるのかということについてはどういう判断をしていくかと。

ただまあ、あの時間とのことで言うと大体8回までは決まっているということですね、今のところセミナーの内容というものが。

だからまあ、そこを踏まえて議論せざるを得ないというふうに思われますが。

で、もう一つは今、蔵治先生おっしゃった、あの確かに渇水だったですね、非常に渇水でした。

で、中日新聞は何故、豊川流域は渇水かという比較的大きな記事を、まあ内容については色々なこれはご意見あると思いますけども、かなり大きな囲み記事が出ました。その記事と、この内容というものにリンクが無いということですね。

それから知事さんの保留発言を記事にしている。これは議会でも今回も質問出ますから、出ている。

で、そのこととこの会議の間に对外情報としてはリンクが無いということですね。これはですからメディアに対する働き掛けということになろうかと思いますが、そういうことを努力するというのは、やはり新聞というのはいずれの訴求力がありますから、そここのところはあるのかなということは今ちょっと考えました。

どうでしょうか、はい。

(富永委員)

えっと、実際会場にですね100人、まあ200人来たとしてもそれ程の大きな違いは無い。

それで実際、テレビで放映する位のことをやらないと本当に広がらないんじゃないかなと思うんですけど。

あの一つは、こういう教材を我々作ってですね、色々講義記録をビデオで残しているし、資料も残していると。それから質問、質疑応答も全部残していると。

まあこれをもうちょっと利用する方法を考えなきゃいけないんじゃないかと。例えば私ですと大学の講義でこの内容を使ったり出来ます。で、実際まあ授業でやったりしました。

まあそういう、どちら・・・対立する意見も示しながらですね。そういう意味で教材として使う、あるいはそういうふうにご利用していただくような働き掛けをするというのは、この貴重な資料をただホームページに入れてあるだけで、どれだけの人が見ているのかというところを少し考えなきゃいけないなというふうに思いました。

(戸田リーダー)

はい、ありがとうございます。

まああの作って来たものを、これを活用していくような方法の提案ですが、まあ既に富永先生はやっておられるんですけど。

はい、他に・・・はい原田さん。

(原田委員)

あの、先ほど言いましたスーパーとか人がたくさん居るところに行くパターンというのはやっぱり今までのセミナーの形ではそぐわないと思います。

で、先生たちおっしゃったように、この会はこの会の意義ある進行の方法があって良くて、なので全く違うものをキャラバン隊的なことですよね。

それが、そういう一般の方のところに出て行って広報する、広報に徹する訳ですね。

この長い会議をじっと座って聞いていただいている方っていうのは本当に100名、200名無いかもしれないですけど、ちょっと来てみようと思うための触りのトーク、皆さんに、そんなお水の問題って私たちの身近なんだ、大変なんだ、関係しているんだ、自分事なんだっていうことを伝えるためのキャラバン隊的なことで、スーパーとかでトークをするのはとてもいいと思います。

で、それはやっぱり30分位の短いものにまとめて、それを分かりやすく一般の方々に伝わる言葉で伝えるということが出来たらいいのかなと思います。

例えば昨日とその前、愛知県主催でベトナムフェスティバルというのをやりましたけれども、もの凄い人が集まりましたけど、それキャラバン隊が連日、広報でまず色んなスーパーを訪れて広報して、それで当日を迎えてたくさん人がドカーンと来るということなので色んな所で広報して、で、当日来てくれない人が居たとしても設楽ダムのこと、

豊川流域のことを考えるきっかけになるような、そんなキャラバン隊をすることは可能かと思えます。

(小島政策顧問)

いいですか。

(戸田リーダー)

はい、どうぞ。

(小島政策顧問)

あの一、えっとこの講座っていうのは凄くあの一・・・まあ勉強になるって変なんですけども、あの一質的には分かりやすく話をしているはずですが、質的にはかなり高いですよ。

で、我々はずね色々なイベントを考えていく時に一つは会場に来られている人の数と、もう一つはそれを内容を他の媒体で見ている人、あるいは読んでいる人の数っていうのを考えるんです。

で、会場っていうのは極端に言うとね、100人が1,000人になったって1,000人なんですよね。

で、それが報道をされるとか、あるいは冊子で活字媒体で配られるとか、そっちの方が実は大きいんで、あの色んな僕イベントをやってきたんですけども、会場に50人居ようが100人居ようが200人居ようが実はあまり変わらないっていうイベントなんですよ。

で、むしろそれがインターネットであるとかあるいは記事に大きく出るとか、そうすると記事を読む人は何万人なんです。

で、その記事になる材料が無いと記者は書けないから、事前に話をして出してもらってというようなことがあって、本当に事柄を波及していくっていう場合のいわゆる広報戦略っていうのは、会場と会場以外っていうのをトータルで戦略っていうのは実は作っているんです、いわゆる広報をやるっていう場合にね。

だから例えばあの、これ今おっしゃったようにこれだけのものを整理をして、コンパクトな・・・にするとか、あるいは先ほど言った人が居るところに出て行くっていうのも、それも誘引なんです。引っ張ってくるためにやっている。

あるいは、ホームページを作った場合にはそのホームページにどうやって訪れてもらうかってのはまた別途やらなきゃいけないので、有名人に来てもらってやるっていうのは引っ張ってくるためにやる訳で、その人に難しい話をしてもらう訳ではないから、別に作らないといけないと原田さんがおっしゃるとおりで、そういうもう少し広がりのあることをやっていくか。で、これ自体を変える必要は無いと思うんですが、それをどうやって外に広げていくかっていうことをやってみたらいいかもしれないですね。

(原田委員)

段々、自分たちを苦しめることになるんですけど、今までのものを小さな冊子にまとめて貰えませんか。

それ私たちのような主婦たちにも分かるような冊子に・・・それがあって私なんかはどっかのショッピングモールでキャラバンをしていきますね。そうすると随分理想的な、最初に私のイメージした集客に行き着くのではないか、行き着かなかったとしてもその冊子で状況が分かっていると。

今、私たちもちょっと頭の中で第1回目からこう整理をしたい頃になってきたの

で・・・でもこれ誰がやるんでしょうか。ちょっと自分でいけないこと言っちゃった。

(戸田リーダー)

まあどこまでやるかですけどね。このチラシ10枚やるだけだって結構なものですからこれにちょっと手を入れて、それでも導入にはなろうかと。そういうのをどう考えるかっていうところを。

(原田委員)

このチラシも私もいつも作る時、どっち向きか凄く迷いながらですけど、このチラシの、あっ今回ちょっとこれ難しくってやっぱり主婦の方たち読まないですね。

なので何かポーンポーンとキャッチーな言葉で、絵と写真のようなもので綴っていかないと本当に専門家の方々にはこれ物足りないし、分からない方々にはちょっと来にくいものだし、凄く私も迷いながらこれちょっと自分でも中途半端だったかなって思いながら作ってます。

うちでもお店でもの凄く配ってますけど「いいねー」、私がやってるってことは皆さん認識があって自分事にしなきゃって思ってるけど、でもこの怖いセミナーに来ようっていう女性陣はなかなか居ないですね、名古屋の時は来ましたが、はい。

(戸田リーダー)

はい、じゃあ他。

(傍聴者)

あの、話題提供がえらい長引いちゃって申し訳ありません。私、言いたいことは運営チームの方々がそういう苦勞をするんでなくて、スタッフをやってみえる県の側がすべきだと思うんです。そこが足りないんじゃないかと。

で、新城の時に人が多かったのは、これは新城を一生懸命回ってポスティングしたからです。絶対効果があります。そういう努力をですね、県の職員もして欲しいなと思います。

それから広報を流しました、これも効果があったと思います。

で、田舎はみんな広報無線がありますので、それで設楽なんかの場合は4回ほど流したんです。

やっぱり1回目は聞かなくても2回、3回も4回も流すと最低、行ってみようかって気になるんです。

だからそういうふうに早めにですね、連絡をもらって流すと。県からそういう要望が出たっついうやつは市や町はすぐ動きますので。そうやってとにかく広報をしっかりとやって欲しい。

それから次回が西三河ということで、西三河初めてですので私は今のままだともの凄く少ないと思います。

だから西三河の方へ関心を持ってもらうように、何か働き掛けをしていただきたいなと思います。

しかも集まる場所が西三河事務所という、ちょっと県の人から見れば何でもないでしょうけど、一般の人から見ればちょっと敷居の高いところですので、人が集まってくるかどうか非常に疑問ですので、何とか工夫をしてですね96名よりたくさん西三河で集まれるように県の方で頑張ってくださいなと思います、以上です。

(戸田リーダー)

はい、ありがとうございました。えーっと、是非よろしくお願いします。

と言うのと、まあいくつかのアイデア出ましたので、これは今回のみならずですね、まとめ方だとかメディアとのコラボの問題ですとか、まあキャバはそのままが良いか分かりませんが、ちょっとどういうのになるのかせっかくこう積み上げてきたものをどう活用するかっていうのは多分、これは過去あんまり無いんじゃないかと思うんですね。これだけこう密にデータを分析してっていうのは無いと思いますから、そういう面での広がり、使い方というのはまあ運営チームとしては一つ考える題材だというふうに思います。

じゃあ本件についてはここまででいきたいと思いますが、6回セミナーのまとめについて1部、2部・・・状況だけでも。

(井上委員)

今、振り返りシートに回答をして、それが事務局の方で整理していただくところだと思います。

で、そのまとめはその振り返りシートを見ながらの方がやりやすいのかなと思ってまして、次回10月14日にやるんですね午前中に、その時に資料を出していただいて、意見に対する回答を見ながら総括、ちょっとあの本当は今回やらなきゃいけないところなんですけれども、少し遅いんですがその方がいいんじゃないかなと思います、はい。

(戸田リーダー)

じゃあ2部の方はどうですか。

(蔵治委員)

えーっと、あの私は担当委員でありかつ講演者というまたこの厄介な役回りでも何でもコメントがしづらいですけども、まあ本来であればどちらかに専念すべきなのかなというところは非常に強く感じたところです。

それとやはりその、まあ若干いびつといいますかその、もちろん開催前から議論していたことであるんですけど、出来れば第1部の方と第2部の方の間で直接、質疑応答を冷静にやるようなスタイルでやれたらより良かった、聴衆の満足度は上がったんだろうなというのは痛感したんですけども、まあそれはもう最初から無理だということが分かっている中でのやり方として仕方がなかったんだろうというふうに思います。

まあそこは今後、出来るだけ上手く改善出来ればいいのかという気がしているところです。

(戸田リーダー)

はい、ありがとうございました。

じゃあ第6回については詳細は次回ということでもよろしいでしょうか。で、あのさっき1か月って言いましたのは、概ねです。これはそこに渡ってからですね、講演者に渡ってから1か月ということなので、あの終了から1か月ということだとほぼ無理だと思いますので、渡ってから1か月としたいと思います。

それから次回以降のセミナーですが、第7回セミナーについてこれは富永委員と蔵治委員がご担当ということで、資料が出ていると思いますがどちらの先生から・・・。

(蔵治委員)

それでは資料3-1をご覧くださいと思います。

前回は計画を示しておりました、その時に大変文書が長いということと一般の方には非常に分かりにくいというような意見も伺ったところですが、まあ大筋ではお認めいただいたと理解しているんですけども。今回の資料では、その意見を受けて、チラシに掲載しなければならないということもありまして、短縮したバージョンというのを入れています。

これは基本的には前回会議でお示した長い、難しいバージョンを短くしようということだけを考えて短くしたつもりなんですけれども、勿論その短くしたために取捨されてしまった部分が当然ありますので、一応この会議で確認したいことは私たちが講師の方をお願いする主旨としては、その前回会議のとおりであると。

だけれどもチラシにはそれをもう少し分かり易くするために一部省略して書かせていただいたということでもよろしいかということです。

で、それは、このテーマの後の企画の部分だけじゃなくて、開催概要の方も実は同じところがありまして4ページ、2枚めくっていただいて裏面の4ページのところにも開催概要っていうのがあるんですけども、開催概要でも講師1の方、今回あの一前回名前が入ってなかったと思いますが、国土交通省中部地方整備局筒井保博さんって方に決まったんですけども、前回で審議、承認されたバージョンっていうのは長かったんですけども、チラシではそれを短くしているということになっております。

それともう一つ下線が引いてある、アンダーラインが引いてあるところに関してなんですが、短縮バージョンでも長いバージョンでも、これまで矢作川で行われてきた方式という文言が入ってるんですが、これは西三河で今回初めて開催されるので、西三河の矢作川と豊川の対比ということはこの機会に是非勉強したいというふうに思ったのでこういうことを入れたんですけども、ちょっとその文言が誤解を招いたところがあって、矢作川で行われている方式というのは何か全国的に独特の特殊な方式があってそれを紹介して欲しいっていう意味合いにちょっと誤解されてしまったようなんですけども。

中部地方整備局の方からはそういう方式は特に無く、渇水対策としては全国共通のルールに則ってやっているのではないかとのご意見をいただいたので、もう少し正確にその講演者の方に私どもが何を話して欲しいかっていうことを伝えるために、3ページのところにございます四角い枠で囲ってある具体的な説明をちょっと作ってみたということです。

基本的には豊川と矢作川の比較、特に渇水状態、河川流量が正常流量を下回るような河川の、流水の正常な維持に支障を来すような状況というのが起きる訳ですけども、それが自然現象としてどのような違いがあるのか。

それから、実際にそういう流量が下回るような水不足というのは、豊川と矢作川でどのように違うかと。

さらに、過去の実績として例えば大渇水だった平成6年、7年、8年のような時に豊川と矢作川でどのような違いがあったか、あるいは同じであったか。

それから、またさらにそれを上回る大渇水と言われている今年ですね、今年についてどういうことが起きたかっていうことを説明してもらえれば、私どもは豊川と矢作川でこういうふうに違うねと、あるいはこういうふうに共通してるのねっていうことが学べるのではないかと考えたということです。

以上のことについて、皆様のご意見をいただいた上で、ここで承認をいただければと思っております。

(戸田リーダー)

はい、それでは先回のですね計画案が若干追加されたところ、また修正されたところがありますけども、大体見ていただいたような内容ですが、いかがでしょうか。確認、

ご確認ご質問等々。で、講師がこれで両名の方の名前が確定したってなるんですね。これがよろしいでしょうかっていうのが一つの確認事項になると思うんですが。あと、内容については、これでもう納得されてる訳ですね。はい、お願いします。

(富永委員)

講師の方にもこの四角で囲ったところは伝わってまして、まあ方式という言葉でなくて、矢作川と豊川のどういう違いが自然現象的にどう違うか、水利用的にはどう違うかというようなことが分ければいいということで、そういう説明をしていただきたいということをお願いしてあります。

(戸田リーダー)

はい、ありがとうございます。チラシには矢作という言葉は入るんでしょうか、最終的には。

(蔵治委員)

現時点でのチラシでは、これまで矢作川で渇水で行われてきた方式って言葉がそのまま入っている状態ですので、もし今からでも修正した方が良ければ何らかの直す文章を考えて直すことになりましたが。

(富永委員)

「方式」っていう言葉だけですかね。

(蔵治委員)

だから、そこ矢作川と豊川の比較の共通点と相違点とかいうようなことに変えるのがより正確だと思います。

(富永委員)

はい、そうですね。もしそういうふうに直していただけるなら誤解を招かないのでいいかなと思うんですけど。

(戸田リーダー)

もし、今日のところの説明には豊川におけることしか書いてないんですね。

今回、西三河でやるということ踏まえると、もし問題無いのであればここにも入れた方が西三河の人にとっては分かりよいつという感じがするんですが。よろしいでしょうか。

はい、じゃあ差し替えて、差し込みで上の方にも少し入れる。上の方にもですね、はい。

それでは、企画案についてですが何か各委員からご意見等ございますでしょうか。よろしいですか・・・サイドイベント。はい。

(原田委員)

今回、サイドイベントは出来ません。会場の都合で。ですけれども、食べ物とかの飲食の扱いが出来ないということですので今まで、でもチラシは出来ちゃってますけれども、案としては何か展示するなり、そういうことがロビーで出来るのかなあということですから。

でも、どなたに展示してもらったってのもまだ全く未定なので、今から出来ること限

られますよね。すいません。

(事務局)

リーダーよろしいですか。

(戸田リーダー)

はい、どうぞ。

(事務局)

その件では、今原田委員がおっしゃられたように、飲食等はちょっと出来ませんので、この間のような内容のイベントはちょっと申し訳ありません。

で、25日の日、今週の水曜日かな。実際の会場を私ども視察っていうか中を見てやってきますんで、ロビーがこれ位広さあるとかですね、ここで何が出来るかっていうことを確認した上で、また原田委員に方にお伝えしたいと思いますのでよろしく願いいたします。

(戸田リーダー)

はい。じゃあ、よろしく願いします。調整してください。

(原田委員)

まだこちらにも案が無いんです、ページの。ですので、またその時はちょっとメールですけれども、皆さんにアイデアを頂戴したいと思います。お願いします。

(戸田リーダー)

はい、ありがとうございました。よろしいですか。はい、どうぞ。

(小島政策顧問)

前回の講座の中で、講座で会場から発言があったんですが、農業をやっている人だったと思いますけど、要するにダムが、設楽ダムが出来る出来ないに拘わらず農業はやってる訳ですよっていう。

やる、出来るとしても何年後になるか分からないけれども、農業は毎年やっている。

で、さっきの蔵治先生の話ではないのですが、今年は大洪水だったと。大洪水だから要するに取水制限のリアリティっていうのはどういうことなのかっていうことと、それから本当に洪水の時に仮にダムが10年後出来るとしてもですよ、じゃあ10年間どうするんだと言う話があり。で、逆に10年間どうするんだっていう話で対応出来るとダムは要らないっていう話になっちゃうかもしれないし。

よく電力の時にですね、原発が必要だっていうことを語らせるために停電にしちゃうかと、停電にすりゃあ電気の必要性が分かるだろうと。これパロディーなんですけどね。

でも実際にみんな生活している訳なんで、生活をしている時に何をやってるかって言うといわゆる節電が身に付いちゃう訳ですね。もう1年間停まっている間にもうみんな節電が身に付いちゃって、どんなに今年がメチャクチャ暑くても乗り切れちゃう。

もちろん火力とかそういうものは動いているんですけども。で、原発が動かないとダメになる訳ではなくて、生活は毎日あるからそれに適応して対策を考える。

洪水もまた今年の様になるかもしれないし、でも生活しているから対策を講じなきゃいけない。

で、という意味での洪水対策は本当にどういう手があるんだろうかっていう、農業は

毎日やっているから毎年やっているからそういうことをちゃんと手当てしなきゃいけないんだっていうことなんですけども。

まあ、それはね一つのテーマかなあっていうのと、それからちょっと蔵治さんのこれを見ていて、渇水は何年に一度の割合で必ず襲来して避けられない自然現象です。そうなんです。

で、例えばこれ国土交通省の土地水資源局の予算要求書類なんですけれども、当然そういうことも考えていて、まあ小雨化の話もあり、あるいは気候がおかしくなっているってこともあり、これまでのデータが用いることが出来ないですね。

で、雨の降り方も変わっている。で、極端にいうとですね東京も、東京の街の中は洪水で利根川に雨が降らないから給水制限で、雨が降って洪水なのに何で給水制限なのっていうことは降り方が変わっちゃったからな訳ですね。つまり降らない所にダムがある訳ですよ。雨が降らないところにダムがある。で、街の中に雨が降って水が必要なところはもの凄い降って、都市河川が氾濫して洪水になってるよと。だから洪水対策も変わってもらわないといけないんです、都市では。

で、そういう意味ではダムも河川もそうですけど、一定の想定をしてる訳ですから、想定を超えることが当然想定されていて、想定を超える雨が降ることもあるし、想定を超える渇水になることもあるし。

でも、そういう中で農業あり生活があるから、どういう対策をしていくかっていうソフトのことで、何かこの国土交通省のは出来るだけダムに頼らない治水への政策転換って、これ民主党政権だからこう書いていたんだと思うんですけども、それでも被害の回避軽減は可能となる調整方策を考えなきゃいけないんだ。ということで、これ予算要求資料ですけども、そういうようなことをやっていて確かにそういうことは必要なんだと思うんです。

それは独立してやるか、あるいは次のこの中で、ちょっとコメントが僕も今の関心事と渇水は何年に一度かの割合で必ず襲来し避けられない自然現象、つまりもう防災ではなくて減災なんです、そういう意味では。想定を超えることがあり得るという意味では。それを今回やるか。「人間と河川・沿岸域の生物との間で水を賢く分配する仕組み」というふうにテーマのパラの2で書いてありますし、2ページの方にも同じ様なことが書いてあるんですが。そういう雨の降り方が地域的に変わるということと、あり得る時の使う方の対策っていうことをどこかでやった方がいいのではないかっていうふうに思うんですが。ここで蔵治先生が触れられますかっていう質問です。

(蔵治委員)

質疑応答の講演の依頼はこういう形でしている訳ですけども、その後ディスカッションの中で触れるかっていうことだと思っんですけども、当然触れていきたいというふうに思っています。

まあ、それにこういう回答があるか分からないですけど、雨の降り方が変わってくる。今までの統計データが役に立たないかもしれないっていう時の減災っていうか社会的にどう対応していくかっていう議論も盛り込めればいいなと思っってます。

あと、ちょっとついでで申し訳ないんですけども一点間違いがありまして、資料3-1の1ページで「全貯留容量の65%」って私そこに書いてるんですけども、ちょっと表現が正確ではなくて、全貯留容量ではなくて有効貯留容量にしないと65%にならないので、チラシの方では実はそこをきちんと指摘を受けて直してるんですが、ちょっと私もこの資料3-1で直すのを忘れておりましたので、これ2か所、短縮バージョンとフルバージョンの2か所にありますので、有効貯留容量に修正をお願いいたします。

(戸田リーダー)

はい、ありがとうございます。内容のことと進め方のこと両面のご質問だったと思いますが、使う側はどうするかってのは確かに重要ですね。喝水って無くなるんだけれども、使う方が減水すればまた状況は変わるってことで、そういうことは多分踏み込んだ話だろうと思うんですが。まあ、それは質問の方ですね、講義そのもの……。

他よろしいですか、委員から、各委員から。じゃあ、フロアからどうですか。

(傍聴者)

あの、すいません。講師の選定の問題ですけれども、これ決まったことですが、講師1が国土交通省の方で、2が大阪府立大学の先生ですか、それで大阪府立大学の先生方はおそらく、こういった全体について世界的な見地からお話をされるのではないかなど。概要としては分かるのですが、そうすると実際の設楽ダムについての流水の正常な維持、機能については国土交通省の人のお話だけになってしまうので、そうすると「いや、ちょっとそれ変じゃないの」というのが質疑応答しかやれないのですね。

いわゆる、私たちが主張したいような事を講師として話をしてくださる方がこの中に居ない訳ですね。

ということはもう一步言うとはですね、この国土交通省の方に私たちが質問したいようなことを含めて講義をしていただくと、そうすると今こういうことを言ったけど「これは本当かいね」ということを質問しやすいと思うんです。

例えばですね、ここに私これをちょっと見ながらですね、例えば流水の正常な維持、機能ということで大野頭首工の下流で1.3トン常時流すとか、牟呂松原用水の下流に5トン流すという、こういうことの根拠はこういうことだとはっきり言っていただくとか、それからですね6千万立米というその流水の正常な維持、機能の容量がどういう計算でどういう根拠で決められたのかとか。

それから「流水の正常な維持、機能」という言葉を使うけど「流砂の正常な機能、維持」ということは使わないですね、砂止められちゃうのですが、水を一定量流せば川の環境を保たれるという、こういうものに対してどういうお考えをお持ちなのかとか。

それからもう一個ですね、寒狭川頭首工というのが既に出来ていて、寒狭川頭首工から豊川用水を取り入れる大野頭首工へ導水路がある訳です、導水をする時にですね、寒狭川頭首工の下に3.3トン以上の水が流れてないと大野頭首工へ水が取れないのですね、今のルールだと。

で、大野頭首工で取った水を、その内のですよ、大部分は豊川用水へ入れる利水として使っている訳です、工業用水とか農業用水とか水道用水、そのゆとりがある時に初めて流況改善事業って言ってますけども、魚道に流しています。

で、そういうことを考えると設楽ダムから何トン水を出せばこの1.3トンの水が確保出来るのか、3.3トンの水が流れない時は取れないですから、1.3トンの水だけを確保するのではなくて、3.3トンの水を確保しないと1.3トン取れない。

その辺のことでどれ位の量を設楽ダムから流せば1.3トンの水が大野頭首工の下に流れるのか、その辺のことをですね数字を挙げて説明していただきたい。

それからここにですね「ゼロから毎秒1.3トンになる」という文章が前回の運営チーム会議の資料に書いてある、これ嘘ですね。

ゼロから毎秒1.3トンになる。今現在もですね1.3トン流れているのがほぼ半年分ある訳です。365日の内の170日位は1.3トン流しているんです。

そうすると、あと補充分としては半年分ですね、だからゼロから1.3トンっていうこの表現の仕方はちょっとどうかと思うのですが、どれ位本当に水が要るのかという。

最後にもう一つですね、私たち盛んに主張している代替え案っちゅう言い方、これ分

からんかな。豊川用水大野頭首工で最低の3.3トン流してしまって、牟呂松原用水で取った水を森岡導水路を使ってもう一度豊川用水に戻すという手がある訳ですね。

そういう運用の仕方です。川の水って確保出来るのですが、そういう事を盛り込んでその国土交通省の方が話していただけると「それはこういう事でダメです、無理ですとか、これは法律で無理です」というふうにして言っていただけると私たちも「いやそこは」と言えるのですが、自分たちの都合の良い事だけダーっと並べられて、ハイサヨナラと言われたんでは、私たちの主張したいことがどこにも発信されなくなっちゃうのです。その点はどうかなと思ってる的確な人だと。

(戸田リーダー)

ありがとうございました。富永先生。

(富永委員)

そういった点について、第2回でもそういった話が少し質問が出ていたと思います。もちろんそれは全て見ているし、ダムの検証会議もあるし色々な議論を見ておられると思いますので、もちろん数字的などれだけ流量がなぜ要るのかっていうのは、もちろんしていただくことだと思うし、その根拠説明していただくこととなっています。

大体というか全てカバー出来るかどうかちょっと分かりませんが、出来るだけそういう事に答えられるようお願いしていますので、きっとやっていただけるものだと思います。

(蔵治委員)

今ご指摘のあった点のうち、大野頭首工で「ゼロから」という事が間違じゃないかという事なんですけれど、これは現在有効な河川整備計画の文言をそのまま書き写しているところなのですが、ですので現在の河川整備計画が間違っているというご指摘なんだったらそれはちょっと私どもの答える範疇ではないのですけれども。

正確にちょっと河川整備計画の文言を読み上げますと、どう書いてあるかということ「大野頭首工（直下流）地点において、水涸れ状態から約1.3 m<sup>3</sup>/s にそれぞれ流量増加に努め」というふうに書いてございます。

ですので、ゼロという言葉は私がこの「水涸れ状態」というのを勝手にゼロと書いちゃったんで、それがいけないっていうことであればこれを「水涸れ状態」というふうに直したいと思えますけれども、そのような経緯でございます。

(傍聴者)

流況改善事業、あっ、ごめんなさい。国土交通省が行った流況改善事業というのが一つあって、その事と寒狭川の頭首工から、もう一つは利水のための水を取る。同じものを使っている訳ですが、その流況改善事業というのは既に行われたんですね。それで、大野頭首工の下流へ水を流すことに既になっているのです。

でも実際はさっき言ったみたいに、寒狭川の頭首工から下へ3.3トンの水が流れていない時は水が取れないものだから、施設は出来ていて水も取っているのですけれど、取った水のすべてが流況改善事業に使われているのじゃなくて、半分位が今流れていると思うのですね、170日位。だから今言われたようにね。

(蔵治委員)

えっと、あのですね、ここは河川整備計画の文言を書いているだけですので、現状がどうだということを書いている訳ではないということをご理解いただきたいのですけれど

ど。

現状は既にゼロではないよというご指摘ならばそれはそういう運用をされているということはあると思います。

(傍聴者)

だからゼロって書かれると、ゼロから1.3トンになっちゃうので、水涸れ状態から1.3トン、さっき言われたようにその方が正しいと思います。

(戸田リーダー)

この言葉でね「となるとされています」という事で、河川整備計画においてはということだろうと理解しますが、まあゼロというのは全然無くなっちゃうじゃないかと、そうじゃないよというご指摘だと思いますが、そこはじゃあ勘案してやっていただけないということでしょうか。

(蔵治委員)

はい、今のご意見を踏まえてディスカッション、ディスカッションはちょっと富永先生と私でどういうふうに司会をするのかという事も決めなきゃいけないのですが、もちろんそのフロアの方から質問シートに書いていただいて、それを正確に質問するということが重要だというふうに思います。

(戸田リーダー)

じゃあ、出来るだけ趣旨に沿うように運営していただけないと思いますので。

(富永委員)

一つは、講師の筒井様だけでなく、複数でも対応するという格好になります。質問に対して。

(戸田リーダー)

はい、ありがとうございます。

そうしますと第7回についてはそのような事でよろしいでしょうか。計画案、それからサイドイベントについても、これは継続的な対応ということですが出ました。

それから振り返りシート、質問シートも出ておりますがこれはどうでしょうか。

(戸田リーダー)

追加を、先程の追加を。そうですね、「初めて」というのを入れた方がいいじゃないかということで、それはいいですね。

それでは第7回については、はいどうぞ。

(原田委員)

チラシのこの青丸はどうでしょうか。この何も今、反対意見が出ませんでしたけれども「ダムをつくる前に知って考えたい豊川の水の分配」。それとちょっと今気付きましたけれども、これ、いきなりこうタイトルがあってこのテーマになっているので、もう一度ダム建設にあたっての説明をちょっと入れたほうが良かったかなと、今ちょっと思っています。

まったく、何のセミナーか分からない理由がちょっと今分かったので、ちょっとその方、直したものの皆さんに見ていただくようにしますので。

(戸田リーダー)

それは青丸の中に入るということですか。

(原田委員)

それとは別に、ここら辺に少し。

(戸田リーダー)

説明が入る、そもそもこれは何なんだと。

(原田委員)

ええそうです、それが無かったなど。

で、この青丸は今回のテーマに沿っているかどうかちょっと一言いただけたらと思います。

(戸田リーダー)

いかがでしょうか。

(井上委員)

考え過ぎなのかも知れないですけど、私の。何か「ダムをつくる前に」の一言が、ダムを造る事が前提にした言葉のように取られちゃうのかなというのがある、それはここでは何も議論しないと。その賛否には関係せずにおいてということとそこがちょっと気になったことと、あと矢作川のところが講演のどこにも入れてもらおうということなんですけど、何か西三河の人に沢山来ていただくんだしたら、矢作川という言葉がどこかに入ると集客というか「行ってみようか」という気になる可能性があるかなと、そういうふうには、思います。

(戸田リーダー)

はい、小島先生。

(小島政策顧問)

えっと、同じなんですけども、あの後者、矢作川の点をどういうふうに入れるかですよ。

東三河は豊川で西三河が矢作川。こういうことに流域でそれぞれの地域が形作られているので、矢作川の経験と、というのを活かしながら考えると何か無いとですね、岡崎でやるの、岡崎で何で東三河をやるのっていうふうになっちゃうかもしれませんね。

名古屋でやる場合には、確かにいわゆるその愛知県全体として考えるっていうコンセプトで、名古屋の人はそういう事で訴求している訳ですが、岡崎でやる場合に「愛知県全体として考える」っていうふうに訴求する、訴えていくのかあるいは「矢作川の経験があって、豊川を考えましょう」というふうに訴えていくのか、その訴え方の問題だと思うんですね。

やっぱり愛知県の尾張、東三河、西三河っていうのは、それぞれの川のところに作られているので、そういうふうにした方がいいかなと。

(原田委員)

「知って考えたい」の前に矢作川のこと触れたりすると、ちょっと直接的ではありませんけども柔らかい感じで付けても、知って考えるというのは矢作川とか、あと海外の事

例とかですね、を知って考えて、で、豊川を考えるとということなので、ここに入れても良いですよ、矢作川という言葉。

「ダムをつくる前に」っていうのを入れたので、多分ダム建設にあたってのそもそもの説明が要るなあと感じたのかも知れないです。

それを入れれば、これ一見みたら設楽ダムもうあるんだと思っちゃうなああと、今ちょっと見て一瞬思ったので、まだ無いよということも知らない人にも、はい、ちょっと説明入れます。

(戸田リーダー)

はい、ありがとうございます。他。

(傍聴者)

すいません、このチラシは完成品ですよ、直すんですか。

(戸田リーダー)

若干直します。

(傍聴者)

直すんですか。

先程から有効貯水容量の65%というお話がありましたけれど、有効貯水容量というのは堆砂の部分も入っているのですね。だからもう少しですね、切羽詰まって訴えとすれば利水容量の80何パーセントかなという言い方をした方が流水の正常な機能82%、利水容量全体の内の占めてる割合が82%、残りが水道水や農業用水ということで、こっちの方がですね切羽詰まって伝わるのかなと思ったんです。

ま、私の考えです、それが一つですね。もし直せるなら検討していただけたらと思います。

(蔵治委員)

えっと、これについては全貯水容量と有効貯水容量の差というのは堆砂容量で、いずれは土砂で埋もれてしまうので水は溜められないねということなので、水が溜められる部分の中に洪水、貯水容量があり、利水容量があり流水の正常な機能の維持のための利用量があるという事で、その水が溜められる部分で65%っていうふうな説明なんですね。

で、その説明で十分じゃないかと思っはいるんですが、またさらにそこから洪水のための容量を除いて、分母を洪水を除いた部分の水のための容量というのにして、その中で利水と流水の正常な機能の維持の比率ということになると、先ほどのご指摘のあった数字に変わるという事なのですが、そんなにここをどう変えたかと言ってそんなに大きな影響があることでは無いとは思いますが、65%というような数字も十分大きな数字だとは思っておりますけれども。

(傍聴者)

この洪水の所がダム構造上ゲートが無くて垂れ流しなんですね、このダムは。だから実際には水はここでいう総貯水量の9,800万トンは貯まらないんです。

いわゆる、このダムというのは流水の正常な機能と水道水、農業用水の水は溜めれるけど、それより多い部分は穴が空いてそこから全部オーバーフローして流れちゃうダムなんです。

だから一番上まで水が行くことはまず無い訳ですね。ダムの大さきとしては9,800万トンありますけど、だから溜まる水の中の、溜めた水の中の何パーセントかって考えると、その方が分かりやすいかなと。

(戸田リーダー)

ご意見はいろいろいただきまして、あとは委員の方で判断していただきたいというように思いますのでお願いします。

若干その矢作川のことは、比較的追加しようということをお願いしたいと思います。よろしいでしょうか、第7回について。

それでは第8回セミナーについてということですが、これは富永委員と原田委員のご担当ということをお願いします。

(富永委員)

第8回は治水がテーマということで、この資料4のような計画案を考えました。

テーマとして豊川の治水計画と治水対策、ちょっと固いなと思うんですけど、またいいタイトルがあれば提案していただきたいと思いますが。

内容としては河川の治水計画、一般的な過去の洪水、大雨の実績や確率そのものに関して、また実質的流量を決めている。この流量を河道で安全に流すために河道の土砂の掘削、樹木の伐開とか築堤、堤防強化などの河川改修事業が行われていると。

このような治水計画というのはどのようにして決められているのかというのをまず理解していただくことを目的としている。

で、今度は決定された流量を河道で安全に流すために、河道の整備で対応する流量と洪水調節施設、ダムとか遊水地で対応する流量に分担されています。この中で設楽ダムというのはどのような役割を果たすのかについて考えます。

で、ここまでが治水計画という話で、その次がですね豊川とはこれまでに洪水災害発生のためにどのような対策が採られてきたのかということも歴史的な背景ってのも理解していただく。

しかしまだ対策は十分とはいえず、たびたび浸水被害が発生している。これから更に整備を進めるには時間が掛かりますということで、それからまた計画を超える大雨が降る可能性もある。

豊川には霞堤といわれる堤防が未整備の地区があって、仮の洪水を調節する効果を持っているんですけども、大きな出水時にはその地域は浸水してしまう。こういった実際には洪水災害が起こってしまうことがあるんですけど、こういう時に洪水から生命財産を守るにはどのように対応すればよいかというようなことについても考えていく、いう趣旨です。

で、開催側としましては、日時としては12月7日、遅めの12月7日にしたいなあと思っているんですが、ただ蔵治先生が都合が悪いかもしれないという話をお聞きしている。

場所は未定ということですが、これは愛知県の方で考えておいていただいていると。

で、講師1から豊川における治水計画・対策についてということで、これもまたどうしてもこの話が出来るとなるとやはり中部地整の人になってしまうということなんですけど、まあそれを考えてみます。

講師2としては、洪水時の水防団についてということで、これ地元の方で、水防団等で活躍されている方をお願いしたいなあ。まだハッキリ決まっておられません。

その他講座の進め方につきましては、従来と同様に講師・講演で40分程度ずつ、あるいはちょっと時間の配分が変わるかもしれませんが、あとで質疑をという形にしたい

というふうに思います。以上です。

(戸田リーダー)

ありがとうございました。じゃあ企画委員からご意見いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。内容とそれからそれに伴う講師についても今、お話ありました。それが一点。

もう一点は、日時、場所ですね。この2つで意見いただきたいと思います。

そしたら内容についてということで、富永委員から概要とそれからそれに伴っての講師、2名からということですね。2名っていうのは、全体の計画の治水計画・治水対策についてと、それから洪水時の水防避難という、そういう方でという形でのご提案がありました。いかがでしょうか。

(原田委員)

講師2の方の設定なんですけれども、水防の方でなかなか相応しい方が居るかどうか今まだ未定な感じなんです。

私が求めている元々ここでお願いしたいなあと思っていたのは、水の洪水と共に長い歴史の中で、洪水もあっても暮らしもあった。

人と川の仲いい共存というか、川と共に暮らす謙虚な暮らしぶりというか、そういうことをお話し出来る方がいいのかなあと思って、また違う方向でも探しています。

また、他に見えてきましたら報告します。

(戸田リーダー)

はい、ありがとうございました。これはご意見・・・はい、どうぞ。

(蔵治委員)

いくつかあるんですけれども、まずテーマの文章の3段落目の2行目「しかし」っていうのがあるんですが、この「しかし」っていうのは削除した方が文章が通りがいいように思うんですけれども。必ずしも「しかし」っていう接続詞に繋がる文章ではないです。

それからその次、2行下のところで「霞堤と呼ばれる堤防が未整備な地区があり」ということが書いてあるんですが、霞堤、豊川に存在する霞堤と呼ばれているものは堤防が未整備っていう言葉はちょっとマッチしないのかなというか、連続堤防という意味では連続堤防になっていない訳ですけど、現状の河川整備計画においても、それを連続堤防にする計画っていうふうに実はなっていないので、それを未整備っていうのは何かちょっと今の計画が全部連続堤防にしますよという計画になっていればまあこれでもいいのかもしれませんが、そうではないので霞堤と呼ばれる不連続な堤防が、不連続な堤防に囲まれている地区があるとか、何かちょっと変えた方がいいような気がします。

最後のこれは細かいことですけど、その次の行の最後の一番最後に「洪水から生活財産を守るためには」というのがあるんですけど、まあこれは洪水災害からっていう意味かと思いますが、洪水自体自然現象なので災害から守るっていう発想にした方がいいかなと思いました。

あと、最後重大なことかと思いますが、講師2が現在お名前を挙げられる状況に無いということなんですけど、やはり開催日時というのは講師のご都合がやっぱり最優先で決められるべきものかと思うので、私の都合は関係ないんですけれども今日時点でどちらかに絞るということよりも、講師が決まった後に講師のご都合を聞いてからの方が良いのではないのかなと。

もちろん講師に提示するときにこれが優先順位1位ですということは言ってもいいとは思いますが、そういうふうになっちゃうと思う訳ですけども。

(富永委員)

今の蔵治委員のご指摘はその通り。文章についてはその通りで、そのように訂正した方がいいと思います。

日時については会場の都合もあるんですが、これは両方確保されているんでしょうか。

(事務局)

私ども一応、12月の7日の方ということでメールいただいておりますが、そちらの方は仮に押さえた格好になってございます。

ただ、11月の30日の方も同じような場所でまだ空いていたと。前回の豊川か豊橋のどちらかということで、場所を変えるということで豊川の方ですね、の方で考えております。

で、豊川市の勤労福祉会館、仮押さえしてありますので、名鉄の諏訪町駅から歩いて5分位のところに、豊川市の勤労福祉会館というところが6日の日も30にも空いていたと思います。

まあ、もう一つが旧の御津町、豊川と合併して豊川市となりましたけれども、旧の御津町の方の勤労福祉会館も空いていると思いますけれども、そこはちょっと非常に不便になりますので、駅に近い方を予定させていただいているという予定でございます。

ただ30日の方は、今は確認してみないと空いていると断言は出来ないと思います。

(戸田リーダー)

場所は豊川であろうということですね。先回、豊川、豊橋ということでしたから豊川市でやってみようじゃないかということですね。それで、その場合、豊川ですと勤労福祉会館が適切だろうということですね。事務局で探した結果で、7、30は可能性があるというのは30もあるということですかね。第1は7ということだと思いますが、2の講師。

(事務局)

それと開催が11月の30か7日ということになりますので、その広報あいち、広報の話ですけども、広報あいちは11月の4日の日に載せる形になります。

そうしますと10月の次回の14日ですね、14日のセミナーの午前中の中ですね、今後の運営チーム会議の方で検討されると思いますけど、それもしくは午前中というかその辺がリミットという形になりますので、この辺はご承知置きをいただきたいと思えます。

ま、どこまで広報あいちに載せるかというのもありますけれども。場所と日時と内容だけ載せて、講師は今回も中部地方整備局の方の名前が載りませんでしたので、どこまで載せるかということもあるだろうと思えますけれども。

(戸田リーダー)

講師の日程がありますから、14日までには決まるでしょう。富永先生よろしいでしょうか、大体そんなようなことで。

そうしますと、内容的なことという文章的に若干修正があります。それから講師については、1はこの趣旨ですね。2については水防になりますけど若干広がる可能性もあるということで。

(事務局)

今のお話ですと30日の日もあり得るというお話でありましたが、この豊川に限らなくてもよろしいということでもうちょっと私ども探させていたいただいてもよろしいですか。

今は、12月7日の方は豊川市の勤労福祉会館の方で仮押さえという形でやってございますし、30日の方はいけるのではないかと思いますけれど、もし詰まっていた場合、豊川市内でなくて豊橋ということでも選択肢も広げて探させていたいただくということはどうですか。豊橋の辺りで探させていたいただくということはどうでしょうか。

(戸田リーダー)

仕方ないですね、講師が合わないということであれば。

はい、じゃあ。

(傍聴者)

たびたびすみません。講師2の方の注文ですけれども、1の方でまた国交省の関係の方が出て説明されるんならば、講師2の方です。ダムが治水に本当に役立つのかということ正面から訴える人を講師に選んでいただきたいなあと思います。

たまたまちょっと例ですけれども、蔵治先生が武庫川シンポジウムで発表された時の資料だと思いますが「災害の社会的認識を巡る矢作ダム下流住民の不信感」ということで矢作川研究所の芝村さんという方が立派な、東海豪雨の時の様子を書かれておられますが、こういう実際に上流のダムが放水したことによって、下流で大変な洪水になってしまったという例もあるんで、ダムが本当に100%治水に役立つものかどうかということ訴えるようなそういう講師を呼んでいただいた方が、水防団の方の話を聞くよりは切羽詰った話として分かりやすいと思います。いかがでしょうか。

(戸田リーダー)

両委員いかがでしょうか。

(原田委員)

正にそうだと思います。はい、その方向で探してみます。

(富永委員)

講師2はまだ実際には決まっていない、それも考える。そうするとタイトルも変わってきますけど。

もちろん治水計画・治水対策なんですけど、第2回の際に本当に対立する件でやった訳ですね。

で、その時の質疑応答の記録残ってますし、その辺の質問に対しても意識して答えられるような説明をしていただきたいということをお願いしたいと思っています。

あと、ダムの代替案についての比較というのも勿論していただきたいように思っています。

講師2としてそういう相応しい方がおられれば、そちらの方も考えていただきたいなあ、ちょっと今から検討していききたいなあと思います。

(蔵治委員)

意見じゃないんですけど、ちょっと確認をしたいんですけど、矢作川研究所のどなたです。

(傍聴者)  
芝村さん。

(蔵治委員)  
島村さんですか。

(傍聴者)  
芝村龍太。

(蔵治委員)  
芝村龍太、はい。大変残念なことなんですけども彼はもうお亡くなりになりました、はい。

(傍聴者)  
代わりの人居ないんですね・・・。

(戸田リーダー)  
その方向性も踏まえて、まだ決まってないということですから委員の方で探していたくということで、今ちょっと人が思い浮かばないとこれ以上の議論は困難だと思いますので、広がりとしては両面、水防的なことと、それから各地区の方ということですね。よろしいでしょうか。

(小島政策顧問)  
このテーマ講師1、講師2というテーマでやっていく際に、役所的に言うと洪水対策いわゆる治水対策をやりますよという場合には、これだけやれば大丈夫です、大丈夫ですと、災害は起きませんという方向に流れた説明になるんですね。

でも、実際は起こるんで。ところがね洪水、災害対策を一生懸命やる方側からすると、これ以上やったら被害が起きますという説明を同時にするのはですね、なかなか気持ち的にはいかないんですよ。大丈夫です、大丈夫ですっていう説明をしている人がね。でも、実際にはそれを超えることがあるんで、超えたらこういうことになりますと。

例えばそれはどこの段階にしても同じなんです。計画を一生懸命やり、ダムを造ります。大丈夫、大丈夫です。

で、そこを超えたところは大丈夫じゃないという域が必ずあるんだけど、大丈夫じゃない時にはどうするんですかということ、大丈夫だという人がなかなか気持ち込めて言えないんですよ。

これ役人の性なんですけれども。だからこれだとね、多分連続して話が聞けるはずなんで、それを超えるそのラインが堤防の強化なのか、霞堤のものなのか、色んなダムを造ることなのか分かりませんが、いずれにしても超えるというところがあるので、どのラインで超えてくるのか、超えた時はどうなるのかっていうことが、その前の話とある程度連動していると、超えた時にはその場合、ここでは霞堤というものがあって、そこは水浸しになるけれども、ここまでは第2防衛ラインみたいなものでいけるだとか、こっから以上はダメだとか。

よくあるようにまず命が大切だとか、財産は返せるけど、まあ最近の防災対策というか減災対策は、まず命という方向に手を出すけども、そういう形で連続的にいけるといいですけど、そういうのをちょっと期待したいなど。

安全ていうのはほんとにもう気持ちがオーバーランしちゃってですね、絶対安全みた

いな話になっちゃうんですね。

(戸田リーダー)

おそらく、両方方針ということですね。全体の捉え方としてそういう視点を持って・・・よろしいですかそういうことで、はい。他よろしいでしょうか。

はい。じゃあ以上ですね、第8回セミナーについて、これは10月の14日が次回の第7回セミナーですので、その日の午前中に最後のまとめをするということになります。

で、14日に第8回セミナーのチラシを配るとというのがいつもの流れですので、そのようなスケジュールでお願いをしたいと思います。

(蔵治委員)

まあ仮の仮・・・。

(戸田リーダー)

ええ仮で・・・。

(蔵治委員)

まだ日にちが決まってないとちょっと・・・。

(戸田リーダー)

日にちだけは決まらないとチラシにはならない・・・お願いします。

それではよろしいでしょうか。最後ですね、その他ということになりますが出来ればですね、それ以降の9回というものを少し方向を見い出しておけばというように思います。

と、同時に年度というのが3月で終わりますので、もうそろそろ最後ですね。最後になるんじゃないかという感じがするんですが、12月の次になりますと2月位になるというのが、大体的見通しということになるろうかと思いますが、そうしますとですね、今までの当初出ました議論の中で順次ですね、セミナーのテーマとして扱ってまいりました。

残されておるテーマがですね、ダムサイトの技術というふうにまとめたダムサイトの安全ということかもしれませんがそういうのが一点、それから水源地の振興策といえますか、振興というのがもう一点、個別テーマとしてはこの二点ということになるろうかというふうに思います。2月段階でどのように考えるのかということに考えておきたいと思いますがご意見いかがでしょうか。

色んなやり方がありまして、1日に2回やるというパターンも出ましたから、そういうことも無いことはないですが。

ただあの日程的に段々厳しいんじゃないかなというのが、年度内ですねということですので・・・と思いますがどうでしょう。

(小島政策顧問)

よろしいですか。先ほど一番最初に言ってた少し広がりのあることをやってみたらどうかということなんですけども、このセミナーでずっとやってきたことを、どうやって広げるかということは非常に大切なことなので、キャラバンかどうかは別としてキャッチーなイベントをどこかでまとめという格好でやるとか、誰がやるんですかっていういわゆるブックレットみたいなものにするとか、つまりコンテンツをずっと今作っている

っていうふうにも見れる訳ですね。

そのコンテンツをどうやって広げていくか、ある程度溜まったものを広げていくって作業がやっぱり必要なんじゃないかっていう気がします。

来年度予算の話もちよっとしてるんですけど、いつまで続くんだと驚かれるかもしれませんが、いわゆるコンテンツを作っていくって作業はずっとこれまでやってきているし、まだあるかもしれませんし、けどもそれを広めるということはすごく大切なことなんだと思うんですね。

それともう少し、前回の・・・僕はこだわったんですけども、取水制限ということが生活にどういうふうに影響しているのかというのが、何も一つ明らかではなかった。もっといいやり方があるかもしれない。

つまり生活実感のところを下りていった時にどうなのか。洪水もそうなんですけども、災害が起きるっていうのは両面ある訳ですね。

水が多過ぎる、水が足りないっていう場合の時に、どうもまだサプライサイドでバルブを閉めるっていう話はずっとあるんですけど、あの取水制限は。それが広がらないのは使う方のサイドの実感にタッチしてない、触ってないからじゃないだろうかと。

で、今年データだけ見るとですね、豊川だけが渇水という周りには水があるけど豊川だけが渇水。蔵治先生が言われたように騒いでいるのか騒いでいないのかよく分からない。どっちでもいいんだということではないはずなんです、生活実感まで下りていくと。

その生活実感もいろいろ工夫されているんでしょうけれども、行政の側がこうやってますよと、でも使う方の側からすれば優先順位はこういうふうにした方がいいんじゃないですかというのものもあるかもしれないですね。

だから先ほど僕が言ったことなんですけれども、いつ起こるかわからない渇水や洪水ですから、そういう備えはしておく必要があるんだと思うんですね。それが今どういうふうになっていて、もっと効率的なやり方があるのではないかとということが知りたいなと。

前にちょっと言いました 365 日取水制限だったら、それが普通なんじゃないですかというふうな、データを見ててですね。それが日常生活なんじゃないですかっていう疑問でもあるんですけど。

(戸田リーダー)

えっと小島先生のご提言としては「今コンテンツをちょっと作ってきています」と思うんですが、2月段階では一応それは置いておいて、その使い方とかそういう関係論のところに入ったものをやった方が良からうと、こういうことでしょうか。それとは別にということでしょうか。

(小島政策顧問)

ちょっとその組み合わせをね、どういうふうにするかはまた・・・。

(戸田リーダー)

他いかがでしょうか。今日は結論出なくてもいいとは思いますが、いくつか意見をいただいております、次回位にですね決めておく必要が、まあ決めていくといいですか、方向を決めていく必要があろうかと思いますが。はいどうぞ。

(蔵治委員)

まあ思い付きですけども、この今残っている2つのテーマ、両方とも非常に重要でかつ両方ともダムサイトである設楽町にも関係が深いテーマですね。

だからこれは設楽町でやらなきゃいけないのかなという思いはあるんですけども、それを出来ればあとは少し時間を掛けて2回に分けてやるというのが望ましいような気もするんですが、時間的に今年度入るかっていうとちょっと。

それとやっぱり、そうですね落ちているテーマ、これまで形として取り上げたけどまだ議論不十分だねとか、情報共有が上手く出来てないねっていうのを少しおさらいしていく必要は、今、小島先生からご指摘があったこと以外にも多分残っているんじゃないかという気がしています。

(戸田リーダー)

私も総括すればちょっと無理だとは思いますが、ただやってきたことの中での並べ直してみたいなことは、結構2年長いですよ。それをざっと見る意味でのそういうディスカッション、それはシンポジウムになるのかこのメンバーでやるのか、これは分かりませんが、そういうものが一つやっぱり要るんだろうなっていう気はします。他、いかがでしょうか。

よろしいですか、じゃあフロアから。はい。

(傍聴者)

最後のまとめというんで、やはり現地に来ていただきたいと。現地見学をお願いしたいと思います。

時間掛かっても分かれて、例えばこれ国交省にお願いすれば多分やらせてくれると思いますが、ダムサイトの横穴掘った道がそのの見学をするとか、それから水没者が既に移転していますが、その移転した跡地を見るとか、それから新しく家が建ってますが、そういうところを見るとか、そういう現地見学をいくつかのグループに分けて、午前中にこれやって、その午後ですね、それも含めて特に地質を中心にして、お話をしていたらありがたい。

地質については、現地の調査をしっかりとってくれた国土研の方をお呼びしていただければ、非常に細かいそのどこが問題かということが言えると思います。

(戸田リーダー)

はい、ありがとうございます。他いかがでしょうか。今日は結論は出ませんが、次回もう1回ぐらいですね、追加議論をして決めたいと思いますが、今日の出たご意見ですね、記録をしておいて次の議論に発展させたいと思います。

よろしいでしょうか現段階では。

それとですね、となりますともう1回チーム会議をですね、11月にやる必要があるということになってきます。

いつも最後は日程調整なんですけど、11月ですね、今の第8回が11月30日か12月7日ということですので11月の半ば、10月14日の次ということで11月の11日の週、18日の週位で・・・。

どうでしょうか、頭から聞いていってもよろしいでしょうか。11日のちょっと私が既に入っているところと、授業は飛ばさせていただいて申し訳ないですが、11日の午後、ダメですか。

(原田委員)

ダメです。

(戸田リーダー)

11、12ダメ?はい、そうすると13日の午後。

(蔵治委員)

ダメです。その週は全部ダメです。

(戸田リーダー)

全部ダメ。ああそうですか。

(原田委員)

私もこの週ダメです。

(戸田リーダー)

ダメ、じゃあ次の週ですか。えー18日の午後。

(蔵治委員)

そこもダメですね、夕方位からいいけど。

(戸田リーダー)

ダメ、夕方大丈夫?

(原田委員)

夕方はちょっとダメすいません。20日過ぎ・・・。

(戸田リーダー)

19日の午後。

(蔵治委員)

OKです。

(原田委員)

ダメなんです。

(蔵治委員)

原田さんダメ。

(戸田リーダー)

原田さんダメ、はい。20日の・・・。

(蔵治委員)

20日ダメです。

(戸田リーダー)

ダメ。21日の午前。

(蔵治委員)

授業がありますから、22なら何とか。

(戸田リーダー)

22の午前。大丈夫ですか。

(小島政策顧問)

ダメですね。

(戸田リーダー)

ダメ。では特異なパターンですが、23日土曜日の勤労感謝の日。

(原田委員)

ダメなんです。

(戸田リーダー)

これダメですか。次の週に入ってちょっとこれ30日の場合は近接しますが、頭であればいいですかね。25日。

(原田委員)

大丈夫です。

(蔵治委員)

大丈夫です。

(戸田リーダー)

大丈夫ですか。分かりました、じゃあ25日の午後ということ。

(原田委員)

午後ですか。

(戸田リーダー)

月曜午後1時。午後イチがよろしい？はい。25日の午後イチで13時からお願いします。

それでは私の今日挙げた議題は以上ということになりますが、各委員から何かございますでしょうか、よろしいでしょうか。

今回は14日のセミナーで午前中にこれは時間を確認しないとイケないですね。これは岡崎で午前中に運営チーム会議で・・・どうでしょう。

(事務局)

時間は名鉄の東岡崎から歩いて5分位のところですので便利なところだと思います。

時間は午後1時からという形で計画案、先ほどご了承されておりますので午前中やられるという話でありますと10時位かなというのは私は思いますけれども。

(戸田リーダー)

一番遠方なのは小島先生ですが。

(小島政策顧問)

朝早く起きて、東岡崎だと豊橋ですかね。

(事務局)

多分先生、のぞみで名古屋まで多少料金高くなるかもしれませんが。のぞみで特急乗られた方が本数はあると思います。

ただ豊橋からでも名古屋からでも名鉄はほぼ同じような時間にはなると思いますので。

(戸田リーダー)

はい、お弁当は。

(原田委員)

どんな環境でしょうか。

(戸田リーダー)

昼食はどんな環境でしょうか。

(事務局)

昼食は多分外へ出て摂っていただく形になると思います、今のところはいい。

(原田委員)

お弁当をお願いしたい。

(戸田リーダー)

じゃあ弁当。ちょっと細かい話ですが。

(蔵治委員)

あとで考えましょう。

(戸田リーダー)

議事録に残しといて。

(蔵治委員)

サイドイベント無いから食事は・・・。

(事務局)

それと11月の25日は、場所はここの同じ会場で午後から予定表を見ますと空いてますので大丈夫だと思います。

(戸田リーダー)

じゃあよろしくお願いします。

(牧原土地水資源課長)

長時間にわたりありがとうございました。

これをもちまして第16回の設楽ダム連続公開講座の運営チーム会議を終了いたし

ます。

ご出席していただいた皆さん、お気を付けてお帰り下さいませ。ありがとうございました。